

十文字槍が語る当別町の物語 ～岩出山伊達家と宝蔵院流槍術の足跡～

当別町の開拓者である伊達邦直公は、独眼竜・伊達政宗の四男、伊達宗泰（むねやす）を家祖とする名門です。そんな岩出山伊達家には、代々伝わる槍の武術があることをご存じでしょうか。それが奈良を発祥地とする宝蔵院流槍術（ほうぞういんりゅうそうじゅつ）です。

この度、当別町教育委員会は宝蔵院流槍術（流派代表・駒喜多学）と協働して特別企画を実施することとなりました。この企画では、当別町と宝蔵院との古くからの「ご縁」を今改めて結び直すことを目的としています。今月の特集では、当別町・岩出山伊達家・宝蔵院流槍術にまつわる歴史や物語、企画イベントについてご紹介します。

※記事協力：奈良宝蔵院流槍術保存会

当別町を拓いた岩出山伊達家に伝わる 奈良発祥・宝蔵院流槍術がやってくる



特別展示を開催

宝蔵院流槍術をはじめ、大内氏の当時の生活や師範の駒井勝直・勝義氏について、伊達記念館にて展示中！

開催期間 5月1日～10月31日

開館時間 10時～16時30分 ※月曜休館日

住所 当別町元町105番地

入場料 無料



伊達記念館別邸前で撮影？岩出山伊達家の家紋を背に 十文字槍を構える大内氏の写真が伝える物語とは？

宝蔵院流槍術は北海道の台地に足跡を残しました。当別伊達記念館に所蔵されている貴重な資料（写真、目録、十文字槍）から、それぞれが語るものを読み取ってみましょう

鋭い眼光で十文字槍を構える伊達家家臣・大内望澄氏

大内望澄氏は、伊達邦直公と共に聚富（しゅぶ）に入った、入植第一陣の家臣団の一人です。陣幕内の文字に「年七三」と書かれているため、出生年から計算して、日露戦争のあった1904年頃の写真と推定されます。

対ロシアを含む北方警備のため、「実践的な武具」として、鉄砲だけでなく、十文字槍も北海道の大地に持ち込まれました。

撮影場所

他の写真と照合したところ、旧伊達邸宅前の中庭で撮影された物と思われます。伊達邸宅の迎賓ルームは、現在でも伊達記念館別館として現存しています。

岩出山伊達家の垂れ幕に縫われた文章

陣幕に記載されている文章は、大内氏の宝蔵院流槍術に関連した自己紹介とそれをテーマにした狂歌です。自己紹介には、大内氏が、江戸の駒井勝直氏を師匠とし十年ほど宝蔵院流槍術を修練して皆伝を受けたこと、さらに、但馬守駒井勝義氏と関係を持っていたことが記されています。



写真に建物が写っている…？



講演会・体験会、当別神社奉納演武を開催

8月29日（土）、30日（日）にとうべつ学園で、講演会や体験会、当別神社で奉納演武などのイベントを開催します。おとなも子どもも宝蔵院の槍に触れてみましょう！

イベントの詳細は、8月号で紹介します。



道の駅とうべつでも特別展示を開催

伊達記念館特別展示や講演会、体験会、奉納演武などのイベントについての特大告知パネルを設置します。当別町に伝わる「武」の物語をのぞいてみてください。

開催期間 8月1日～8月31日

開館時間 9時～17時

住所 当別町当別太 774 番地 11

入場料 無料

宝蔵院流槍術とは？



月百姿 寶蔵院
都幾乃発明(つきのはつめい)
浮世絵師:月岡芳年(1839-1892)

奈良の興福寺宝蔵院主 胤栄が創始した十文字槍を使った槍術

宝蔵院流槍術は、奈良を発祥地とする日本を代表する武道です。その起源は約 470 年前、興福寺の子院である宝蔵院の院主・胤栄（いんえい）が、猿澤池に浮かぶ三日月を突いたことにさかのぼります。この出来事をきっかけに、胤栄によって十文字槍（鎌槍）が創始されたと伝えられています。

戦国時代、鉄砲が合戦の主役になる以前には槍が全盛期を迎え、「槍の功名」と呼ばれるほど武功の象徴とされていました。そのような時代において、槍術として画期的だった鎌槍を用いた宝蔵院流槍術は、「突けば槍 薙げば薙刀 引けば鎌 とにもかくにも外れざりけり」（胤張師）と詠われるほど攻防に優れた技術を持っていました。やがて江戸時代には、宝蔵院流槍術は最大の槍術流派へと発展を遂げました。

宝蔵院流槍術の流祖・胤栄はどんな人物？

幼少の頃から長道具の繰法に習熟し、上泉伊勢守に弟子入りしたのち、十文字槍の極意に達した人物

宝蔵院流槍術の流祖である胤栄（いんえい）は、大永元年（1521 年）、興福寺衆徒の家に生まれ、幼少期から長刀や長巻といった武術に親しんでいたと伝えられています。

後年、胤栄は神道流の達人である成田大膳太夫忠盛と出会い、その卓越した技術に深い影響を受けて十文字槍を発案し、宝蔵院流を創始したとされています。

さらに、胤栄は上泉伊勢守による新陰流を柳生宗厳とともに学び、指導を受けました。宝蔵院流槍術は、神道流と新陰流の技術や思想を基に成立した槍術です。

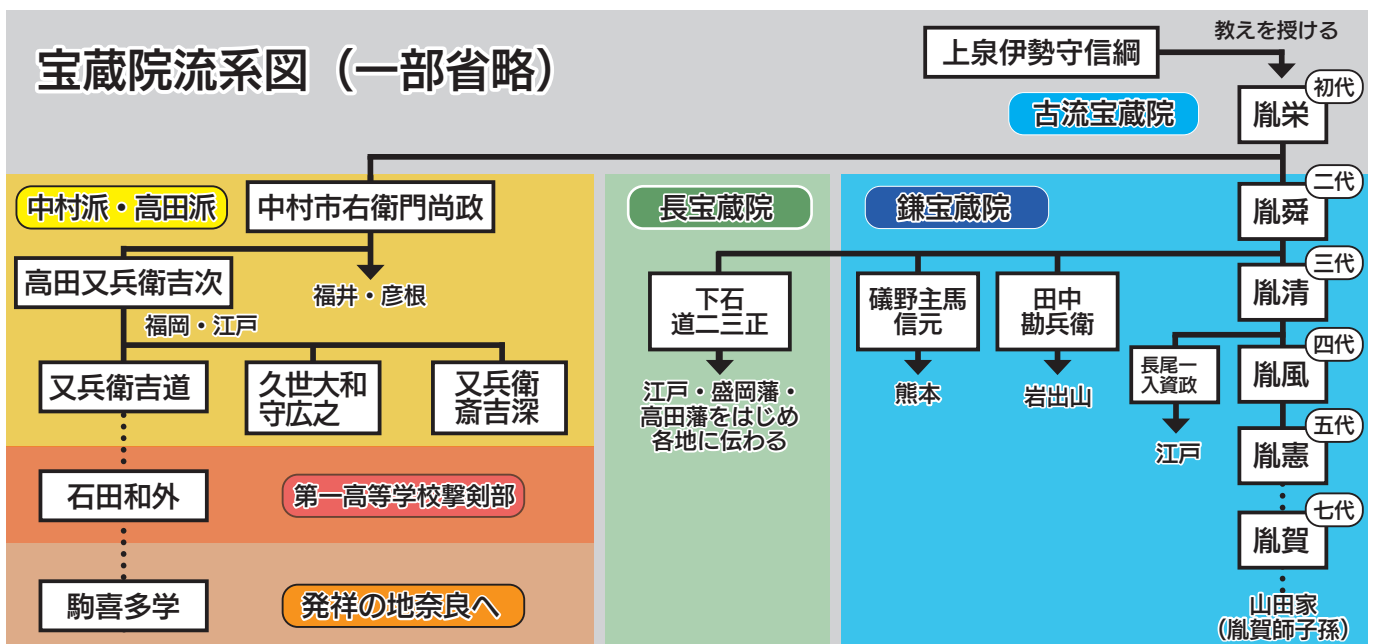


宝蔵院流槍術を伝承した人たちは？

宝蔵院流は多くの分派を生み、大きく分けて三つの系統へと発展しました。しかし、明治時代に入ると、寺領の没収により宝蔵院そのものが消滅し、存続の危機を迎えます。こうした中、第一高等学校（現・東京大学）撃剣部に伝わっていた宝蔵院流高田派槍術を基に、石田和外（元最高裁判所長官）を中心とする有志によって復興が図られ 1976 年には、宝蔵院流高田派槍術の槍合わせの型が発祥の地である奈良へと伝えられ、現在へと受け継がれています。



宝蔵院流槍術
ホームページ



岩出山伊達家と宝蔵院流槍術との出会いは？

岩出山伊達家三代目 伊達宗親が江戸で田中勘兵衛に出会い、宝蔵院流槍術の伝授を受けたことから始まります

岩出山伊達家三代目 伊達宗親以降、宝蔵院とは300年以上の時を経て、今ここに繋がっています

